

講義ユニット名	皮膚		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	ひで みちひろ 秀 道広	所属	皮膚科 (内線 5235)	
		メール	ed1h-w1de-road@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	もりおけ さとし 森桶 聡	所属	皮膚科 (内線 2126)	
		メール	morioke-hma@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	皮膚は人体を覆い外界との境をなし、生体防御の第一線として重要な役割を果たす人体最大の臓器である。更に、皮膚を構成する様々な細胞は全身の炎症あるいは免疫反応に深く関わっている。また何より豊かな社会生活を送るために、健康で美しい皮膚は重要な要件である。皮膚科学は皮膚におけるすべての異常を対象とし、多岐にわたる知識と技能を求められる医学分野である。講義では、最低限必要な皮膚科学的知識を身につけるとともに、皮膚疾患に対する考え方、治療法に対する理解を深める。			
講義ユニットの 到達目標	<p>皮膚の組織構造を図示して説明できる。</p> <p>皮膚の細胞動態と角化、メラニン形成の機構を説明できる。</p> <p>皮膚の免疫防御能を説明できる。</p> <p>皮脂分泌・発汗・経皮吸収を説明できる。</p> <p>アレルギー発症の機序を概説できる。</p> <p>アレルギー疾患の特徴とその発症を概説できる。</p> <p>アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>薬物アレルギーを概説できる。</p> <p>皮膚検査法（硝子圧法、皮膚描記法、Nikolsky（ニコルスキー）現象、Tzanck（ツァンク）試験、皮膚温測定法、発汗検査法、皮脂測定法、光線テスト）を概説できる。</p> <p>皮膚アレルギー検査法（プリックテスト、皮内テスト、パッチテスト）を説明できる。</p> <p>微生物検査法（検体採取法、苛性カリ<KOH>直接鏡検法、細菌・真菌培養法、スピロヘータ検出法）を概説できる。</p> <p>皮膚附属器の病変について概説できる。</p> <p>発疹の種類と主な原因を列挙できる。</p> <p>発疹の所見を記述して分類できる。</p> <p>発疹患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>湿疹反応を説明できる。</p> <p>湿疹・皮膚炎群の疾患（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、皮脂欠乏性湿疹、自家感作性皮膚炎）を列挙し、概説できる。</p> <p>蕁麻疹の病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>多形滲出性紅斑、環状紅斑と紅皮症の病因と病態を説明できる。</p> <p>皮膚掻痒症の病因と病態を説明できる。</p> <p>皮膚血流障害と血管炎の病因、症候と病態を説明できる。</p> <p>薬疹や薬物障害の発生機序、症候と治療を説明できる。</p> <p>薬疹を起こしやすい主な薬物を列挙できる。</p> <p>自己免疫性水疱症の病因、病態と分類を説明できる。</p> <p>膿疱の種類と病態を説明できる。</p> <p>水疱症鑑別のための検査法を説明できる。</p> <p>先天性表皮水疱症の種類と病態を説明できる。</p> <p>尋常性乾癬、扁平苔癬とGibert（ジベル）薔薇色靴糠疹の病態、症候と治療を説明できる。</p> <p>母斑・母斑症の種類を列挙できる。</p> <p>悪性黒色腫の症候と対応の仕方を説明できる。</p> <p>白斑の種類と病態を説明できる。</p> <p>皮膚良性腫瘍、前癌状態と悪性腫瘍の種類と見分け方を説明できる。</p> <p>皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫と組織球症を説明できる。</p> <p>皮膚細菌感染症（伝染性膿痂疹、せつ、よう、毛囊炎、丹毒、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群）を列挙し、概説できる。</p>			

	<p>皮膚真菌症<表在性、深在性>の症候と病型を説明できる。</p> <p>皮膚結核、Hansen(ハンセン)病の症候、病型と病因菌を説明できる。</p> <p>梅毒の症候、病期と合併症を説明できる。</p> <p>全身性疾患(代謝異常、悪性腫瘍)の皮膚症状を列挙できる。</p> <p>サルコイドーシスの症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>全身性エリテマトーデスの病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>強皮症の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>血管炎症候群を列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>Behcet病を概説できる。</p> <p>紅皮症を呈する疾患を列挙できる。</p> <p>脱毛を来す疾患を列挙できる。</p> <p>熱傷面積と深達度から熱傷の重症度を説明できる。</p> <p>熱傷の治療方針を概説できる。</p> <p>ポルフィリアを概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。一部の講義では小テストを行い、評価の参考にする。 3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式と記述形式の併用による試験を行う(配点: MCQ 25点、記述 75点)。 本試験における合格基準は、基本的には絶対基準で60点とするが、得点率60%未満の受験者が総受験者の20%を超えた場合には平均点-1.5*標準偏差を合格基準とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>新しい皮膚科学(中山書店)、標準皮膚科学(医学書院)、皮膚病アトラス(文光堂)</p> <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <p>マイナー皮膚科学(金芳堂)</p>